

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	IHGインディゴ強羅プロジェクト	階数	地上4F
建設地	足柄下郡箱根町木賀字新田924番1他	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2018年8月20日
敷地面積	4,496 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社観光企画設計社
建築面積	2,000 m <sup>2</sup>	確認日	2018年9月5日
延床面積	7,600 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社観光企画設計社



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.1</b></p> <p>★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p> <p>環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>① 参照値: 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>② 建築物の取組み: 84% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>③ 上記+②以外のオンサイト手法: 84%</p> <p>④ 上記+オフサイト手法: 84%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q1 室内環境 (スコア: 3.2)</p> <p>Q2 サービス性能 (スコア: 2.9)</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 3.0)</p> <p>LR1 エネルギー (スコア: 3.3)</p> <p>LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.1)</p> <p>LR3 敷地外環境 (スコア: 3.0)</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p>Q1 室内環境 (スコア: 3.2)</p> <p>Q2 サービス性能 (スコア: 2.9)</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 3.0)</p>		
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p>LR1 エネルギー (スコア: 3.3)</p> <p>LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.1)</p> <p>LR3 敷地外環境 (スコア: 3.0)</p>	<p><b>Q のスコア = 3.0</b></p> <p>音環境: 2.6, 温熱環境: 3.5, 光・視環境: 3.2, 空気質環境: 3.2</p> <p>機能性: 3.0, 耐用性・信頼性: 3.0, 対応性・更新性: 2.7</p> <p>生物環境: 3.0, まちなみ・景観: 3.0, 地域性・アメニティ: 3.0</p>	<p><b>LR のスコア = 3.2</b></p> <p>建物外皮の熱負荷: 4.8, 自然エネルギー: 3.0, 設備システム効率化効率の運用: 2.9, 3.0</p> <p>水資源保護: 3.4, 非再生材料の使用削減: 3.1, 汚染物質回避: 3.0</p> <p>地球温暖化への配慮: 3.6, 地域環境への配慮: 3.0, 周辺環境への配慮: 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>敷地に沿うように早川が流れ、対岸の街並みの上方には明星ヶ岳の美しい風景が広がり、有名な大文字焼きは敷地から見える場所に位置する。これらと条件の中で土地固有のデザインを創出するために、敷地から垣間見える近景の樹木群、遠景の明星ヶ岳の風景を感じられる風景が主役となった、既存の風景に最大限の敬意を払った、主張しない建築・外構デザインを目指した。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>エコを広めるために地球全体で自然を守るようにISO14001に沿った活動を行っている。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>建築基準法に準拠しており、またテナントホテルのマニュアルにもリンクしている。及んでFFE(家具、テキスタイル、什器、備品等)の仕様も生産から環境負荷の少ないものを取り入れるよう配慮している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>ホテルインテリアに配慮した内装デザインで将来的なりリニューアルも対応可能な納まりを実践している。設備計画も快適性を重視した仕様を取り入れ、設備管理作業が可能な施工に対応している。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>多様な植樹を施し景観への配慮に取り組むのは勿論、既存敷地内の既存林を活用し、可能な範囲で敷地内を緑化する。環境を「かけがえない商品そのもの」と位置付ける。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>全館LED照明をベースとして省エネルギー、環境に配慮した施設とします。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>設備衛生器具には節水コマ対応、自動水栓の節水型衛生機器を採用している。内装造作材には集成材を使用し、部材の再利用可能性向上から躯体、軽鉄地下、仕上材の分割が可能な施工法を採用している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>敷地内外に既存大径木があり、修景上の形成が保たれることから大事に保存し、またヒートアイランド抑制に配慮しています。敷地全体の緑化率も23%を確保している。東西に長い配棟で中央部を切り分けて計画したことで卓越風向からの風を風下に通せるようにできた。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される